

2012年4－6月期四半期別GDP速報（1次QE）  
公表に際しての古川経済財政政策担当大臣談話

2012年8月13日（月）

1. 本日公表した2012年4－6月期GDP速報（1次QE）では、実質成長率は前期比年率1.4%と4四半期連続のプラスとなった。  
4－6月期のプラス成長の要因としては、復興需要に加え、雇用や収益環境の持ち直し等を背景に、民需の各項目が増加したこと、復興事業を中心とする公共投資も引き続き進捗していることなどが挙げられる。こうしたことから、我が国の景気は内需にけん引される形で上向きの動きが続いていると考えられる。
2. 7－9月期以降についても、復興需要が景気を下支えする中で、趨勢としては、雇用や収益環境の持ち直しが続くことから、緩やかな成長が続くと見込まれる。ただし、欧州政府債務危機を背景とした海外経済の更なる下振れには留意する必要がある。また、やや長い目で経済の持続的な成長を実現していくためには、復興需要から民間需要主導の経済への円滑な移行を図っていくことが重要である。
3. こうした認識の下、政府としては、7月31日に閣議決定した「日本再生戦略」に基づき、成長力強化のための取組を着実に進めていく。とりわけ、「モノ、人、お金」を動かす観点から、特に平成25年度までを念頭に、規制・制度改革、予算、税制等の政策手段を動員して、デフレ脱却に全力で取り組んでまいりたい。

（以上）